

# 音楽部会 研究の構想（案）

平成26年度～

## I 研究主題

音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか。

## II 主題設定の趣旨

平成23年度から25年度までの3年間は、「音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか」の研究主題の下、①〔共通事項〕を生かした授業の工夫、②表現領域「創作」と鑑賞領域の指導の充実、③我が国の音楽文化の理解を深める指導の充実の三つの視点から研究を進めてきた。その結果、学習指導要領改訂という時期に、新たな方向性を示す成果として、〔共通事項〕の学習を支えとした学習展開の工夫や、我が国の音楽文化に関する授業実践への意識は高まったように思われる。

しかし、「A表現」領域においては、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて自分の思いや意図をもつ過程を大切に学習が展開されているか、また、「B鑑賞」領域においては、解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさ等に対する自分なりの考えをもつ過程を大切に学習が展開されているかなど、課題は多い。また、全ての教科等に共通する今日的な教育課題である、「学力の重要な要素をバランスよく育み、言語活動の充実を図り、生徒同士の協同的な取組を促して、主体的、創造的な学習を一層推進する」ことも指導の充実を図るための重要な課題である。大切なポイントを整理・確認し、改訂の趣旨を生かした授業実践が着実に広がっていくようにしていきたい。

そこで、平成26年度からの3年間は、研究主題をこれまでと同じく「音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか」とし、①〔共通事項〕の学習を支えとした指導計画の作成、②〔共通事項〕の学習を支えとした学習指導の工夫、③学習評価の工夫の三つの視点を中心に研究を進めていきたい。なお、今後3年間については、各年度で重点的に取り上げる題材を設定し、前述の三つの視点に基づいて、焦点を絞って研究を進めていくこととする。

## III 研究のねらいと内容

### 1 研究のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情をもち、感性を働かせて音や音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成する。そのため、これまでの研究成果や課題を整理し、生徒の実態を踏まえながら、3年間の継続的研究を通して研究主題を解明する。

### 2 研究内容

- (1) 〔共通事項〕の学習を支えとした指導計画の作成
  - ・目標、指導内容、教材、評価規準、学習活動等の整合性・一貫性を確保する。
  - ・複数の領域・分野を関連付けて構成する題材では、共通に取り扱う音楽を形づくっている要素を明らかにする。
  - ・鑑賞の学習の質的な充実を図る学習指導を展開できる題材構成を工夫する。
  - ・年間指導計画は、題材同士の関連性や発展性を考慮して各題材を配列する。
- (2) 〔共通事項〕の学習を支えとした学習指導の工夫
  - ・指導のねらいや手立てを明確にし、生徒が感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視する。
  - ・音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、言語活動を適切に取り入れる。
  - ・生徒が協同的に取り組む学習形態を工夫する。
  - ・我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実する。
  - ・創作と鑑賞の学習を工夫する。
- (3) 学習評価の工夫
  - ・観点の趣旨に沿って評価規準を設定する。
  - ・生徒の状況を常に把握し指導を工夫する中で、記録に残す評価を行う場面を精選する。

# 音楽部会 平成 26 年度研究計画（案）

## I 研究主題

音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うにはどうすればよいか。

— 我が国や郷土の伝統音楽の表現と鑑賞 —

## II 主題について

昨年度は、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重する態度を養う観点から、「我が国の音楽文化の理解を深める指導の充実」に焦点を当てて研究を行った。その結果、我が国の音楽文化のよさを感じ取ったり、長く歌い継がれ親しまれてきた日本の歌や、和楽器等の伝統音楽の学習に対する興味・関心が高まり、その奥深さや面白さに気付いたりするなど、成果が見られた。しかしながら、まだその指導については十分とはいえ、表現と鑑賞の両領域において、我が国や郷土の伝統音楽の学習が一層充実して行われるようにする必要がある。

そこで、今年度は研究の副題を「我が国や郷土の伝統音楽の表現と鑑賞」とし、中でも、民謡や長唄等我が国の伝統的な歌唱を取り入れた指導、和楽器を用いた表現の指導、和楽器を含めた我が国の音楽のよさを味わう鑑賞の指導に焦点を当て、「感じ取ること」「味わうこと」を大切にしたい指導と評価について研究を進めることとした。

## III 研究内容とその視点

### 1〔共通事項〕の学習を支えとした指導計画の作成

- (1) 題材の目標、指導内容、教材、評価規準、学習活動の展開と評価規準の位置付け及び評価方法等を明確にするとともに、計画全体の整合性・一貫性を確保し、意図的、計画的に学力を育成するよう工夫して指導計画を作成する。
- (2) 複数の領域・分野を関連付けて構成する題材では、学習全体を通して共通に取り扱う音楽を形づくっている要素を明らかにしておく。題材構成については、a：特定の領域・分野のみで構成する題材、b：表現領域における複数分野で構成する題材、c：表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成する題材の三つのタイプがある。
- (3) 我が国や郷土の伝統音楽の表現と鑑賞の充実を図るために、表現領域と鑑賞領域を関連付けた題材となるように適切な教材を選択する。
- (4) 年間指導計画を作成する際には、各題材で育成する力を明確にし、題材同士の関連性や発展性を考慮して各題材を適切に配列する。

### 2〔共通事項〕の学習を支えとした学習指導の工夫

- (1) 音楽を形づくっている要素は何かを明らかにし、学習過程の中で生徒自らがそれらの要素に気付くようにする。また、音楽の表情や雰囲気、質感等を、音楽に関する用語を適切に用いて言葉で表せるよう指導する。
- (2) 生徒同士が協同的に取り組むことができるような学習形態を工夫する。題材によっては適宜複数の形態を組み合わせるなどして、個と集団の学習の質が高まるようにする。
- (3) 我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を一層深め、我が国の音楽文化に愛着をもつ態度を養うよう指導する。
  - ・歌唱活動では、民謡、長唄等の我が国の伝統的な歌唱のうち、その声の特徴を感じ取れるものを教材として選択し、そのよさを味わうことができるよう工夫する。（姿勢や身体の使い方についても配慮すること）
  - ・和楽器については、簡単な曲の表現を通して伝統音楽のよさを味わえるように指導を工夫

するとともに、その楽器を生み出した風土や文化・歴史等についても学習し、曲の捉え方や表現を深めることができるようにする。（姿勢や身体の使い方についても配慮すること）

・鑑賞活動では、我が国や郷土の音楽の背景となる風土や文化・歴史との関わり等に目を向け、関連する表現領域の活動と関わりをもたせることで鑑賞の質的な充実を図る。また、音楽の価値を判断するために、学習の対象となる音楽について、多くの人が普遍的に認めているようなよさや特徴等を学ぶ過程を大切にするとともに、言葉で説明する、批評するなどの活動を適切に取り入れ、鑑賞本来の目標の実現を図る。

### 3 学習評価の工夫

- (1) 「A表現」領域（歌唱、器楽、創作）の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」の三つの観点で、「B鑑賞」領域の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の二つの観点で評価をする。
- (2) 「音楽表現の創意工夫」、「鑑賞の能力」の観点については、《音楽的な感受》に基づいた思考力・判断力・表現力の育成を目的としていることから、その趣旨に沿って評価規準を設定する。
- (3) 評価規準の設定に当たっては、題材で扱う学習指導要領の内容に対応し、教材の特徴や学習内容等を踏まえ、題材全体の学習指導における評価の位置付けを考慮して行う。
- (4) 生徒の状況を常に把握して工夫ある指導を十分に行う中で、結果を記録に残す評価を行う場面を精選する。

#### 《題材全体の学習指導における評価の位置付け例》

評価作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料より（文部科学省 国立教育政策研究所発行）  
 題材名：長唄の歌唱や鑑賞を通して歌舞伎音楽のよさや美しさを味わおう第3学年  
 【学習指導要領内容】「A表現・歌唱」イ、「B鑑賞」ア、イ〔共通事項〕音色、旋律、強弱等

時	主な学習内容	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	・長唄を聴いたり唄ったりして、雰囲気と音楽的な特徴との関わりに関心をもつ。	長唄の音色、節回し、強弱と曲想との関わり、長唄の特徴と物語や演出等との関連に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（観察・ワークシート）			
2	・長唄にふさわしい表現で唄う。			長唄の初歩的な発声、言葉の発音、身体の使い方等の技能を身に付けて唄っている。（観察・演奏）	
3	・「ついに泣かぬ弁慶も」の部分について、どのように唄うかについて思いや意図をもつ。		長唄の音色、節回し、強弱を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。（ワークシート・演奏）		
4	・これまでの学習を踏まえて、「判官御手を取りたい」の部分で唄う。			長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な、発声、言葉の発音、身体の使い方等の技能を身に付けて唄っている。（観察・演奏）	
5	・歴史的背景を知る。 ・長唄、歌舞伎について自分なりの考えをまとめ、歌舞伎音楽を鑑賞する。				長唄の音色、節回し、強弱を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解するとともに、長唄の特徴を物語や演出等と関連付けて理解し、根拠をもって批評して歌舞伎音楽のよさや美しさを味わって聴いている。（発言・ワークシート）

## IV 研究方法

- 1 学習指導要領の趣旨等を確認し、一層の理解を図る。
- 2 各郡市内や郡市間での研究体制を整え、日々の授業実践を基に、共同研究を推進する。
- 3 教師自身の感性を磨き、指導力の向上を目指して積極的に研修を行う。
  - (1) 様々な研修会等に積極的に参加し、指導に必要な技術の向上を目指す。
  - (2) 授業に関する資料を持ち寄ったり、新しい教材の紹介や地域の人材に関する情報交換をしたりするなど、教師間の連携を密にし、新しい知識や模範を吸収する。

